



菅刈公園 (青葉台2-11-25)

人口と世帯	
住民登録者数	253,043人
男	118,839人
女	134,204人
世帯数	140,151世帯
外国人登録者数	7,974人
<small>20.6.1現在の住民記録、20.5.31現在の外国人登録による</small>	

## かくだ 宮城県角田市と 友好都市協定を締結しました



宇宙航空研究開発機構角田宇宙センター施設見学が出来ます



左から、雨宮正弘目黒区議会議長、青木英二目黒区長、佐藤清吉角田市長、玉手安博角田市議会議長

これまで、小学生のホームステイやみどりの交流事業など、多くの分野で交流を重ねてきた宮城県角田市と、5月31日に、角田市民センターにおいて、友好都市協定を締結しました。

目黒区から、区長、区議会議長をはじめ、交流活動を続けてきた区民など交流関係者17人が参加した式典では、協定書署名のほか、県立角田高校吹奏楽部の演奏や目黒区の木であるシイの木の記念植樹が行われました。

今後は、この協定の締結を契機として、教育文化、産業経済、防災など幅広い分野で、未永く支援し合い、共に発展していくことを目指していきたいと考えています。

国際交流課国際交流係 (☎5722 - 9291)

### 角田市とは

角田市は、東京から新幹線などを利用して約3時間、宮城県の県庁所在地である仙台市からは、南へ車で約1時間のところにあります。豊かな自然に恵まれ、市の面積の3割強が田畑で占められている農業の盛んな地域です。

角田の歴史は古く、約6千年前の縄文時



みどり豊かな角田市の自然

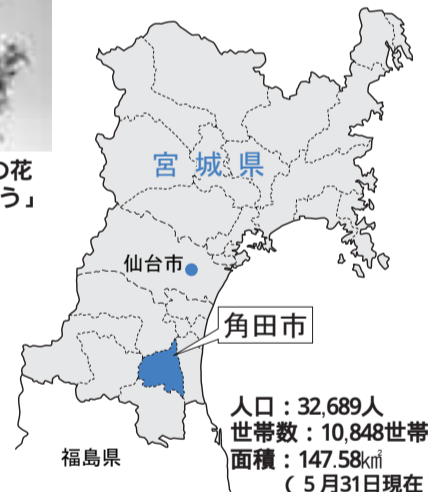
代の阿武隈川貝塚があります。市内の高蔵寺にある阿弥陀堂(国指定重要文化財)は宮城県で最古の木造建築で、宇治平等院や平泉中尊寺金色堂などとともに、平安時代に建立され現存している阿弥陀堂7カ所のうちの一つです。

昭和33年10月に誕生した角田市は今年、市制施行50周年記念の年に当たります。昭和55年にはロケット用エンジンを研究開発する角田宇宙センター(写真右上)が設立され、近年は企業誘致に努めるなど、産業の育成にも力を入れています。

豊かな自然を背景に、春の菜の花まつり、7月の阿武隈川いかだ下り大会、8月のかくだふるさと夏まつり、11月の阿武隈リバーサイドマラソン大会など、毎年多くの催しものが行われています。



角田市の花「りんどう」



角田市ホームページ

URL <http://www.city.kakuda.miyagi.jp/>

### 交流の歩み

目黒区と角田市との交流は、昭和57年10月に区制施行50周年記念行事として、「目黒氏の子孫を訪ねて」と銘打ち、区民



塚本区長(当時・右)らの角田市訪問

のかたなど約250人が角田市を訪れたことがきっかけとなりました。目黒氏は、武蔵国目黒村(現在の目黒区)に住んでいた豪族といわれ、室町時代に伊達氏から現在の角田市島田に領地を与えられ、移り住みました。現在も角田市には目黒氏の子孫のかたが住んでいます。

平成に入ってから、目黒区・角田市双方の小学生のホームステイが始まり、農村体験や都

会での生活体験を通して、豊かな情操をはぐくんできました。

目黒区の小学校では、稲作指導交流会や農業体験学習も行なわれています。学校ごとに5月と10月に角田市を訪問し、田植えや稲刈りなどの農業体験を通して食や農業について考えるきっかけとしています。

平成4年には、災害時における相互援助協定を締結しました。災害が発生したときには、食料品、生活必需品、薬などをはじめ、応急対策や復旧対策に必要な物資を相互援助することになっています。

市民の交流としては、目黒民踊愛好会が角田市の農協祭へ参加していますが、一昨年からロータリークラブ同士の交流も始まりました。一



小学校での稲作指導交流会

方、秋の区民まつりでは、角田市伝統の太鼓の演奏や農産物の販売などが行われます。このほか、角田産のお米が区立小・中学校の給食で提供されたり、角田市で作られている苗木を緑化事業で配布したりするなど、幅広い分野に渡って交流が続いています。今年度は、交流活動や自然を紹介したパネル展や角田市産米の特別販売などを行う予定です。

昨年からは角田市では、目黒区民向けに、年4回、パンフレット「食彩王国 角田市通信～ごさいん」(総合庁舎本館1階区政情報コーナー、図書館などで配布)を発行しています。日ごろの角田市のようすが分かる情報交流も始まり、目黒区と角田市のきずなはますます太くなっています。



目黒区民向け広報誌「食彩王国 角田市通信」ごさいん